

# 0 歳 児 年 間 計 画

## 年間目標

- 特定の保育士との信頼関係をもとに、人とのかかわりを喜び、自発的に遊んだり、自己主張を活発にしたりする。
- 安全で安心できる環境のなかで、聞く、見る、触れるなどの体験を通して、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む。
- 個人差に留意しながら、離乳をすすめていく。のびのびと意欲的に体を動かし、健やかな成長を促す。
- 歌やふれあいあそび等保育士と一緒に楽しむ。

		I 期(4月～5月)	II 期(6～9月)	III 期(10～12月)	IV 期(1～3月)		
ねらい	●新しい環境になじみ、清潔な環境で心地よく生活し、生活リズムが整う。 ●特定の保育士に気持ちや欲求を受けとめてもらい安心して過ごす ●保育士とふれあいながらいろいろな遊びを遊びを楽しむ。	●健康で気持ちよく過ごし、生活リズムが安定する。 ●身近な保育士との心地よい応答的なかかわりのなかで、信頼関係が増す。 ●自己表出を活発にする。保育士の愛情豊かな受容とかかわりのなかでやりとり遊びを十分に楽しむ。	●安定した生活のなかで特定の保育士との心のつながりを深め、人やものへの関心が広がる。 ●保育士に見守られて探索遊びやひとり遊びを喜ぶ。	●寒さに負けず、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ●保育士や友だちと同じことをしたり、まねしたりして、一緒にいる喜びを味わう。 ●探索あそびを十分に楽しみ、さまざまなものへの興味や好奇心が広がる。			
	ポイント	●家庭での生活の仕方を知り、一人ひとりの生活リズムに対応する。 ●嘱託医との連携を図りながら個々の既往歴、予防接種、健康状態を把握する。 ●一人ひとりの気持ちを受け止め、丁寧にかかわる。	●沐浴や温水あそびを通じて心地よい感触を楽しむ。 ●室内の温度、湿度に配慮し、水分補給を十分に行う。 ●梅雨期、夏の保健衛生に留意する。	●戸外に出て、歩く、見る、聞くなど自然に触れながら体を動かして遊ぶことを喜ぶ。 ●体調を崩しやすい時期なので一人ひとりの健康状態に留意し、対応する。 ●こまめに衣服調節を行う。	●感染症予防のため、室内の温度や換気に留意し、子どもの健康管理を丁寧に行う。 ●保育士が仲立ちとなり友だちと一緒にいる楽しさを感じとれるようにする。 ●子どもの思いを受け止めながら安心して思いを出せるようにする。		
		産休明け～4か月	前期5～6か月	中期7～8か月	後期9～11か月	1歳～1歳3か月	1歳4か月～2歳未満
養護 生命の保持 教育	情緒の安定	●保育士等に抱かれ、安心して語りかけてもらいながら、静かにミルクを飲む。 ●おむつが汚れていたり、ぬれていたりしたら、こまめに取り替えてもらい気持ちよさを感じる。 ●欲求や発声にやさしく応じてもらい、落ち着いた雰囲気の中で心を通い合わせる。 ●満足するまで十分にあやしてもらおう。 ●見たり、聞いたり、触れたりできる玩具で十分に遊ぶ。	●一人ひとりの状態に合わせて離乳食が進む。 ●スプーン、コップに慣れる。 ●見たり、聞いたり、触れたりできる玩具で十分に遊ぶ。 ●あやされたり、話しかけられたりすると笑い、喃語を発する。 ●リズムカルで簡単な歌や遊び、わらべうた、ふれあい遊びを喜ぶ。 ●首がしっかりとすわり、自分から手を伸ばしてつかんだり、しゃぶったり、振ったりする。 ●寝返り(仰向け⇄腹ばい)をする。	●さまざまな食材に慣れる。 ●コップからお茶を飲もうとする。 ●目の前の食事に手を伸ばし、触ったり手についたものをなめたりしながら、自分で食べようとする仕草をする ●大人に甘え、気持ちを受けとめてもらう。 ●泣いたり、笑ったり、体を動かしたりして自分の欲求を表出する。 ●暖かい日は外気に触れ、心地よさを感じる ●手、指全体や手のひらを使ってものをつかむような玩具で遊ぶ。 ●腹ばいからおすわりへと姿勢を変えたり寝返りをしたり、ハイハイなど体を移動したりすることを喜ぶ。	●さまざまな味の離乳食を食べる。 ●手づかみ食べをする。 ●衣服の着脱に興味をもつようになり、着替える時に手足を動かそうとする。 ●大人の身振りをまねたり、大人ともの言葉(喃語)のやりとり遊びをしたりして楽しむ。 ●指さして大人と気持ちを通わせる。 ●開けたり、落としたり、破ったり、身のまわりのものに興味を示し、何でも手に触れる。 ●「どうぞ」「ちょうだい」のやりとりを楽しむ。 ●ふれあい遊び、手遊びをして、リズムに乗って遊ぶ。 ●音楽に合わせて体を動かす	●さまざまな食べ物に関心をもち、手づかみやときにはスプーンを使って自分から意欲的に食べようとする。 ●幼児食へ移行し、よく噛んで食べる。 ●わらべうたや手遊びなどの遊びを楽しむ。 ●簡単な言葉を理解して自分の名前が呼ばれたことがわかり、「おはよう」「ばいばい」などを通して友だちに関心をもち。 ●音楽や簡単なリズム遊びを楽しむ。 ●絵本に出てくるものに興味を示す。 ●ひとり立ちからひとりで歩き、ハイハイでぐり、後ずさりするなど全身を使った遊びを楽しむ。 ●出し入れする、通す、移し替える、つまむ、つかむなど、変化のある両手を使った遊びを繰り返し楽しむ。	●スプーンを持って、自分で食べようとする。 ●排泄後に言葉やしぐさで知らせる。 ●着脱しやすい服の脱ぎ着を自分でしようとする。帽子・靴・靴下を自分で脱ごうとする。 ●保育士が見守るなか、便器に座ることに慣れ、排泄する気持ちよさを知る。 ●保育士とのふれあいや簡単な言葉のやりとりを楽しむ ●友だちの行動に関心を示し、関わりをもとうとする。 ●戸外で自然物に触れて遊ぶ。 ●戸外や散歩に行くことを楽しみ、乗り物や動物に興味を示す。 ●保育士と一緒に絵本を見ながら簡単な繰り返しや模倣を楽しむ。 ●なぐり描き、感触あそびを楽しむ。 ●リズムに合わせて体を動かして遊ぶ。 ●いろいろな遊びに興味をもち、体を動かしながら全身を使った遊びを楽しむ。
	身近な人と気持ちが通じ合う 健やかなりのびのびと育つ	●おむつ交換のときに赤ちゃんマッサージをしてもらったり、戸外やテラスに出て、外気に触れたりする。 ●子守歌やわらべうたなど、歌いかけてもらいながら保育士に抱かれ、心地よい眠りにつく。	●おむつ交換のときに赤ちゃんマッサージをしてもらったり、戸外やテラスに出て、外気に触れたりする。 ●子守歌やわらべうたなど、歌いかけてもらいながら保育士に抱かれ、心地よい眠りにつく。	●おむつ交換のときに赤ちゃんマッサージをしてもらったり、戸外やテラスに出て、外気に触れたりする。 ●子守歌やわらべうたなど、歌いかけてもらいながら保育士に抱かれ、心地よい眠りにつく。	●おむつ交換のときに赤ちゃんマッサージをしてもらったり、戸外やテラスに出て、外気に触れたりする。 ●子守歌やわらべうたなど、歌いかけてもらいながら保育士に抱かれ、心地よい眠りにつく。	●おむつ交換のときに赤ちゃんマッサージをもらったり、戸外やテラスに出て、外気に触れたりする。 ●子守歌やわらべうたなど、歌いかけてもらいながら保育士に抱かれ、心地よい眠りにつく。	●おむつ交換のときに赤ちゃんマッサージをもらったり、戸外やテラスに出て、外気に触れたりする。 ●子守歌やわらべうたなど、歌いかけてもらいながら保育士に抱かれ、心地よい眠りにつく。
かかわりと配慮・援助(環境づくり)	●特定の保育士がかかわることで、信頼関係を築いていけるようにする。 ●一人ひとりの子どもの健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●一人ひとりの生活リズムを大切に、生理的欲求を受けとめ、安心して生活できる環境をつくる。	●気温による健康状態に応じて衣服の調節をこまめにし、体、衣服、身のまわりにあるものを清潔にする。 ●玩具の清潔、安全を心がけ、常に点検する。	●睡眠時の環境に配慮し、あおむけに寝かせたり、呼吸、顔色、嘔吐の有無など、きめ細かく状況を把握したりし、乳幼児突然死症候群を予防する。プレスチェックを行う(5分)	●授乳のときに視線を合わせてやさしく言葉かけをしながら、ゆったりとした気持ちで飲ませる。	●一人ひとりとゆっくりふれあい、欲求を受けとめ情緒の安定を図る。 ●おむつ交換のときはゆったりとした気持ちで子どもに接し、話しかけたり手足をやさしく動かしたりして心地よさを感じさせる。 ●一人ひとりの子どもの健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●気温による健康状態に応じて衣服の調節をこまめにし、体、衣服、身のまわりにあるものを清潔にする。 ●玩具の清潔、安全を心がけ、常に点検する。	●一人ひとりの子どもの健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●気温による健康状態に応じて衣服の調節をこまめにし、体、衣服、身のまわりにあるものを清潔にする。 ●玩具の清潔、安全を心がけ、常に点検する。	●一人ひとりの子どもの健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。 ●気温による健康状態に応じて衣服の調節をこまめにし、体、衣服、身のまわりにあるものを清潔にする。 ●玩具の清潔、安全を心がけ、常に点検する。
	●一人ひとりの状態に合わせて離乳食が進む。 ●スプーン、コップに慣れる。 ●見たり、聞いたり、触れたりできる玩具で十分に遊ぶ。 ●あやされたり、話しかけられたりすると笑い、喃語を発する。 ●リズムカルで簡単な歌や遊び、わらべうた、ふれあい遊びを喜ぶ。 ●首がしっかりとすわり、自分から手を伸ばしてつかんだり、しゃぶったり、振ったりする。 ●寝返り(仰向け⇄腹ばい)をする。	●子どもの興味や発達に合わせて探索活動を助長し、おすわり、ハイハイ、つかまり立ち、つたい歩き、歩行などの運動が十分できるよう安全で活動しやすい環境を整える。 ●離乳食は、お皿を子どもの目の前に置き、やさしく語りかけたり、一緒に口を動かして見せたりしながら、こぼしながらも自分で食べようとする気持ちを大切に、楽しく食べられるようにする ●喃語に込められている気持ちを受けとめ、繰り返しやりとりを楽しめるようにする。 ●つかむ・叩く・引っばる・出し入れする・持ち替えたり握ったりするなど、手指を動かしたり遊べる玩具を用意する。 ●ものや行動に言葉を添える。 ●人見知りが出る時期なので、甘えや気持ちを十分受けとめ、思いを十分出せるようにする。	●一人ひとりに合った運動遊びが楽しめるよう場所や手作りの玩具を用意する。 ●子どもの声や指さしなどに耳を傾け、共感しながら名前を知らせたり、動作を言葉で結びつけたりして語りかけ、発語の意欲を育む。 ●触れたり、叩いたり、合わせたり、はずしたりと楽しめるような玩具を用意する。 ●興味のある絵本を保育者と見ながら楽しむ。	●保育士がゆったりかかわったり気持ちを代弁したり仲立ちになったりしながら友だちと一緒にいることの喜びへとつなげていく。 ●わらべうたや簡単な手遊びをして、ふれあい遊びを楽しめるようにする。 ●ハイハイや歩行などの発達に合わせて一人ひとりの活動が楽しめるよう清潔で安全な環境を整える。 ●模倣あそびが盛んになるのでふれあい遊びや手遊びをして、リズムにのる楽しさを味わえるようにする。 ●自分でしたいという気持ちを受けとめ、満足感が得られるようにする。	●楽しい雰囲気の中で、手づかみやスプーンを使って自分で食べようとする意欲を大切に、必要なところは介助する。 ●おむつが汚れていないときはトイレに誘い、排泄できたときはほめ、トイレでの排泄に慣れるようにする。 ●自分でしようとする気持ちや意欲を受けとめ満足感をもたせるようにする。 ●自我が芽生えて、自己主張が出てくるので一人ひとりの欲求をしっかり受け止め、思いを出せるようにする。 ●簡単な歌を保育士とうたったり手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かして遊べる遊びの環境をつくる。 ●行動範囲が広がり、好奇心が旺盛になるので危険なものや場所の点検をして探索活動を十分にしている。		
家庭との連携	●保護者の思いを聞き、受け止めて信頼関係を築く。 ●子どもの成長の見通しを伝え、安心して子育てができるようにする。 ●テレビなどメディア環境を遠ざけ、一対一の触れ合いの大切さを伝える。	●離乳食の内容や状況について伝え合い、家庭と一緒に進めていく。 ●玩具やわらべうたなどの紹介をして家庭での遊び方を伝える。 ●子育てのなかでわからないことを気軽にきけるような工夫をして、不安をなくしていく。	●感染症にかかりやすくなるので、健康状態や予防接種について連絡を密にとる。 ●歯が生え始める時期なので、口の中を清潔に保つよう心がけてもらう。 ●家庭でも遊べるように、園でうたっている歌やてあそびを保護者に伝える。	●ハイハイなどで移動でできるようになるので、誤飲など、家庭内での事故予防について知らせる。	●好きなものばかり食べようとして偏食が出てくるので、さまざまな食材になじむよう家庭と協力し合っていく。	●発達個人差がみられるようになり、保護者が不安を抱きやすくなるので、育ちの過程を喜び合えるように今後の見通しを話していく。 ●子ども同士のかかわりやそのなかで起こるトラブル(かみつきなど)について丁寧に説明する。	

